

核兵器廃絶をめざす 富山医師・医学者の会 会報

2005. 8. 31
核兵器廃絶をめざす
富山医師・医学者の会
富山市桜橋通り6-13
電話 076-442-8000

「アンゼラスの鐘」宣伝にご協力を



長崎テレビ制作「思いをつなげて」で放送された「アンゼラスの鐘」予告編から

チラシを受付窓口に 置いてください

このアニメ映画は被災した病院を舞台に、薬も医療器具もない中で懸命に患者の救護にあたった医療人のヒューマニズムあふれる姿を描いています。先生はもちろん、家族、スタッフの方々にもぜひ観ていただきたい作品です。

また病院や医院の窓口に置いて、患者さんにもお知らせ下さい。

必要枚数の連絡は
〇七六一四四二一八〇〇〇
まで



上映会場変更のお知らせ

教育文化会館から
富山県民会館大ホール
に変更になりました

教育文化会館は、アスベスト対策の補修工事のため、急遽富山県民会館に変更になりました。なお日時はまったく変わりませんので安心してお越し下さい。

「アンゼラスの鐘」の予告編と医師・秋月辰一郎を描いたテレビ番組 (8/16放送)

ビデオあります (実費)

8/16の深夜2時、チャンネルBBTで被爆60年特別番組が放送されました。冒頭、映画「アンゼラスの鐘」の被爆シーンに始まり、秋月辰一郎医師の現在の闘病生活と秋月医師の非核平和運動への関わり、特に高校生など若い世代へ核兵器廃絶を伝える活動が紹介されました。またアニメ映画の予告編や製作過程、地元長崎での支援運動の取り組みなども紹介されています。

原爆被害の風化が心配されているなかで、映画「アンゼラスの鐘」の完成を心待ちにしているナガサキの人々の思いが伝わってくる番組でした。



1970年

秋月辰一郎さん



秋月すが子さん

『アンゼラスの鐘』脚本3稿より

〜エピローグ〜

235) 病室の秋月医師
薬を手にとつて複雑な表情でみつめる。
(ナレーター)

薬の欠乏に悩んでいたわたしたちを救ったのは、皮肉にも原爆を投下したアメリカの薬でした。ペニシリン、プラズマ、サルファ剤からフェリンまで、それは当時の日本の医薬品とは比較にならないほど上質なもので、アメリカの科学力の高さを思い知らされました。

しかしながら、その薬品も、同じ科学が産んだ原爆のもたらした白血病や癌など原爆症の苦しみから、被爆者を完全に救済することはできませんした。

わたしは、核兵器による放射線被害の前に、医学が無効であることを痛感しました。被爆し、自ら傷つき肉親を失いながらも地獄のような病院にこもり助け合った人々の勇気と行動は、わたしを大きく励まし、戦争で打ち砕かれた人間への信頼を回復させ、生きる勇気と希望を与えてくれたことを、わたしは決して忘れることができませ

ん。
その後、浦上第一病院は生き残った人々の献身と努力によって再建され、聖フランシスコ病院とその名をかえました。

一九四七年、わたしと村井すが子看護婦

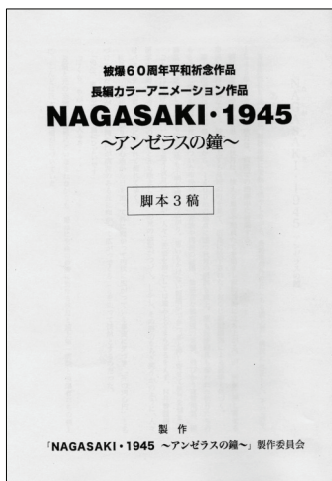
は結婚。

被爆地長崎は、アメリカやわたしたちの予想を超えてめざましい復興をとげましたが、白血病や癌など原爆の爪あとは、被爆六〇年を経たいまも被爆者たちを苦しめ続けています。

核兵器はその後、原爆の数百倍もの水爆に進化して世界中に蓄えられ、今もわたしたちの命を脅かし続けています。

わたしは被爆した医師として、核兵器が人類と共存できないことを訴えて、妻とともに世界中を歩きました。

核兵器と戦争のない世界の実現を願つて。



この脚本をご希望の方は
ご連絡下さい。
無料で送ります。

「アンゼラスの鐘」上映運動を進めながら

自身の体験を基に、より大きな恐怖や悲しみを想像すること

世話人・金井 英子

核兵器廃絶をめざす富山医師医学者の会の世話人会で「アンゼラスの鐘」の台本をいただきました。長崎の原爆を扱った話なので広く一般の人々に受け入れてもらえるかどうか不安でした。もしも私自身が最後まで読み進むことができなければ、とても自主上映を進める気持ちにはならないと思いました。

その心配は杞憂に終わりました。読み進むうちに私は、次第に主人公秋月医師に感情移入していきました。原爆という、全く想像がつかない恐ろしい題材を扱った物語です。ただしそれは、原爆そのものを伝える記録映画ではなく、被爆しながらも生きのびた（あるいは亡くなってしまった）人々の生き様を伝える映画です。

主人公の秋月医師は次々と困難に直面し、絶望しかけます。私が自分自身を彼の中に投影できた理由は、彼が決して全能の医師ではなく、途中で「逃げ出したい」と思う場面が出てくるからです。そこで初めて彼が臆病さや迷いを持ち合わせた等身大の人間として感じられました。

私には被爆体験はありません。けれども幼い頃に見た火事で、暗い空に赤い炎が立ち上る様、あるいは焼け跡の黒く焦げた柱。それらを眼に浮かべながら読み進みました。かつて原爆資料館で見た遺品や写真とは必ずしも結びつかないのは不思議なことです。あくまでも自分自身が体験した恐怖を基に被爆の場面を想像しました。また治療の術（すべ）もなく、秋月医師の前で被爆者が亡くなる場面は、自分の肉親が亡くなった時や、治療する手段のない病気で亡くなった赤ちゃんを思い出しながら読みました。

「こんな恐ろしい映画は直視できない」と思う方がいらっしゃるかもしれませんが。でも私は「どうぞそのような心配はなさらないで下さい」と言いたいのです。恐ろしいもの、グロテスクなもの、と目を塞ぐことをしないで、素直な気持ちで見ることが大切ではないでしょうか。すべてを理解しようとするのではなく、自分がこれまでに経験した恐怖や悲しみを基にして、それよりもっと大きな恐怖や悲しみがあることを想像すること。それはあくまでも自分の想像力の範囲でということ

ですが。そして想像したものを心に抱き続けることが私たちに求められていると思います。この物語が天災によるものでなく、人災によってもたされたという不条理に対する怒りを、今後の核医師の会の活動のエネルギーにしていきたいと思います。

当時医者になっていたら、私も秋月医師のように…

世話人代表・片山 喬

アニメ映画「アンゼラスの鐘」は、原爆で破壊された長崎で、秋月という1人の医師が患者の救護に力をつくす有様を描いた作品です。私はこの作品の脚本を読ませて頂きましたが、終戦の年に米軍の焼夷弾で絨毯爆撃され焦土と化した横浜市に住んでいた時のことや父のことを思い出しました。

それは終戦の年の5月29日のことです。私はまだ旧制中学の3年生、学徒動員で無線機工場に行かされていました。父は開業医で、空襲当日より警察署や小学校で救護にあたりていました。その日の夕方に、父のいた警察署に行ってみると、近所の顔見知りの人達が顔に大火傷をして診察に来ていました。放射能障害がなかったのは原爆をおとされた都市とは異なりますが、悲惨さはそれに劣りません。我が家の焼け跡へ行ってみると、せまい土地なのに焼夷弾が何本もころがっており、よく両親がこれにあたらなかったものだと感心したものでした。そうした中でまだ子供の私でしたが戦争はいやだと心から思いました。

「アンゼラスの鐘」の秋月先生は病院そのものが被災した中でよくやったと思います。私自身もし当時子供でなく、すでに医者になっていたとすれば、先生と同じように活動したであろうと思います。

若い世代に被爆体験を継承することが核兵器廃絶への道

世話人副代表・高野 昇治

8月は、「6日9日15日」とかよく口にしますが、これらは戦争末期の悲惨な、また大きな事のあった日の事です。《6日は広島

に、9日は長崎に原子爆弾が落とされました。
15日は終戦です》

今年は戦後60年という事ですが、被爆した方々の高齢化が進んできています。早く、次の世代へこの経験、体験を繋いでおかねばなりません。さもなくば、単なる歴史上の一つの出来事としてしか記憶に残らなくなるかも知れないのです。受け継いで行く役目は、次の世帯の責任です。特に人生を考え、将来に目を向ける、感受性の豊富な若い方々にお願ひしなければなりません。

生きるとは何か、死ぬとは何か、戦争とは？
原子爆弾とは？我々の使命とは？

ある調査によると、原子爆弾が広島、長崎に落された事を知らない若者がかなりの数になっているという事です。教育の問題かもしれません。又、よく言われる、平和ボケの一つの現われなのかも知れません。しかも例えあの「きのこ雲」までは知っていても、その下で、どんな事が起こったのかについてまでは知らない人が多いと言います。

もしも、ひとたび原子爆弾が炸裂したとすれば、我々医療従事者は、もう手を拱いているだけに近い状態に置かれます。治療をうけつけぬ、皆殺しの兵器です。このことは、先年東海村で起きた、臨界事故の時の対応・結果を見ても判ります。平和な時点で、数人の方々に、最高と思われる治療を強力に行なっても、残念ながら、効果は発現できません。ましてや多数の被爆者、あまつさえ病院ほか治療所の壊滅、医療従事者も一緒に被爆し死亡します。誰が助けるのですか？まさに地獄です。然し、そうならない様にする方法があります。世界中が核兵器を作らず、持たず、使用しない、言うなれば核兵器を廃絶する事です。

そんな絵空事、と言われますか？

私はそうとは思いません。世界の人々と共に、核の怖さを理解し、手を繋いで核廃絶の行動を倦まず弛まず力強く続けることが、たとえ道は遠くても、その目的達成に至る確かな道です。それと共に、戦争を起こさない事を、世界の国々が国是とする様に努力をする事です。それらが核廃絶に繋がる大切なことだと思ひます。何はあれ行動すべきです。

アンゼラスの鐘は、見て楽しくなる面白いアニメではないでしょう。然し、このような経験は、是非必要な事と思ひます。医療に従事している方々を始め、各界の特に戦争、核をしらない方々には尚の事と思ひます。お知り合い、友人をさそって一緒に見て下さい。

そうして、長崎を地球最後の被爆地にしましょう。

忍び寄る憲法改悪の動きに対し原爆慰霊碑の誓いを新たに

世話人副代表・黒部 信也

今年の8月6日には、私は広島の平和祈念式典に参加して、「過ちは二度と繰り返しません」と彫られた原爆慰霊碑の前で犠牲者の冥福を祈り、核廃絶の願いを新たにしました。

夕方富山に帰ったら、「今日は結婚記念日で、来年は金婚式ですね。」と妻から言われ、この日を選んだ頃のことを思い返された。

17年前には、医師になった娘が原爆慰霊碑の前で、契りを交わして結婚したが、もう三人の母親になった。こうした我が家の、平和であればこそ普通の生活にも、少し前から暗い陰が忍び寄るような思いをするようになった。

敗戦後新しい日本を平和憲法のもとに再建することを国民挙げて誓い、「過ちは二度と繰り返しません」という言葉は、日本人皆の心に刻み込まれた筈だったのに、昨今の日本の憲法を無視する動きが強められている情勢では、その言葉の重みを改めて意識させられずにはおれない。

危険な情勢のなかで「アンゼラスの鐘」は一筋の光

世話人・太田 真治

終戦60周年の夏は被爆60周年の暑い夏でもある。この60年間、原爆の悲惨さを目の当たりにした方々が原爆被害の惨状を風化させないようにと奮闘されている。

先日被爆体験者の方の地獄絵図のようなお話を聴き、改めて核廃絶、戦争反対を心に誓った。今私のできることは何か。すべきことは何か。被爆体験を後世に語り継ぐ運動に少しでも協力することから始めようと思う。悲惨な結末しか生まない戦争に強く反対して行こうと思う。

日本の現状を顧みるとどうだろう。アメリカ追随で憲法改定、教育基本法改定、戦争無反省教科書の採択などの逆行現象のオンパレード。政治に至っては、小選挙区制度での少数意見無視が大手を振ってまかり通っている。

状況はけっして明るくはないのですが、明るい光は無くなってはいけません。「アンゼラスの鐘」もその光です。

夏の終わりに

世話人・小熊 清史

ああ、この国はまた戦争をするのかもしれない。この夏、そんな思いに駆られた。

「非常時」という言葉の下にあらゆる不条理が覆い隠され、やがてヒロシマ・ナガサキに至った歴史が、繰り返されているように思えてならない。「カイカク」という呪文が全ての思考を停止させ、異議申し立ての声をあげる者はまるで「非国民」のようにみなされる。

戦争に突き進んだ指導者と、それを許した社会が、いま再現されつつある。

戦争となれば、手段を選んではいられない。日本には、高濃度のプルトニウムが5トン以上備蓄され、それは核兵器600発以上を製造できる量だという。日本の技術力をもってすれば90日で核兵器を作ることができる、ともいわれる。

セミの鳴き声が遠ざかり、夏の暑さが忘れられていく。どんなに歳月が経とうとも、忘れてはならないことがある。アンゼラスの鐘よ鳴り響け。

「アンゼラスの鐘」を契機に 家族と話をしよう

世話人・与島 明美

私の子供は戦争は遠い過去のことのようになっています。そして自分たちが戦争に行かなくてならないことはありえないと思っています。そしてこの平和がいつまでも続くものだと楽観しています。多くの人はそうではないでしょうか。

しかし今の世の中の流れを甘く見ているとひょっとしたら自分がそして自分の子供たちを戦争に送り出さなくてはならなくなるかもしれません。私たちは大いにその危険を感じて運動を進めようとしているのですがいまひとつ広がりには欠けています。

「アンゼラスの鐘」を契機に大いに運動の輪を広げていきたいと思っています。家族そろって観てみませんか。そして家族で話をしましょう。回りの人にも伝え語り合ひましょう。そして平和を守る、戦争をしない日本を守っていきましょう。

核兵器廃絶をめざす
富山医師医学者の会

第9回総会を迎えて

日時 9月16日(金) 午後8時より
会場 フコク生命ビル 9F 会議室

今年は2年に1回の総会です。ご都合のつく限りご出席くださるようお願いいたします。ご出席される場合は076-442-8000までご連絡ください。

2003、2004年度 活動報告

◆イラク戦争・国民保護法について講演会を開催

03年8月6日、弁護士の青島明生氏を講師に「イラク戦争・国民保護法」をテーマに講演会を行なった。青島氏は、今回のイラク戦争では世界の多くの人々が国際法を根拠に反対したことで大いなる歴史の進歩だ。

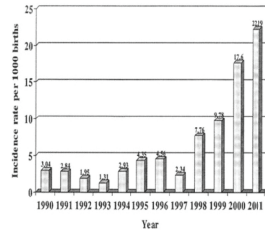


一国主義に陥ったアメリカの対抗軸として国連の価値が高まった。国民保護法制は、すでにある災害対策基本法の「災害」を「武力攻撃」に置き換え、国内を戦時体制とするものであり、憲法九条のもとで培ってきた国民の平和意識を後退させるねらいがある、と述べた。

◆劣化ウラン弾の被害について啓蒙

03年秋に来日したイラク人医師のデー

タによれば、バスの小児ガン患者は02年には1.85%と、湾岸戦争前に比べ急速に増加した。先天性奇形の出産は0.2%から増え続け01年には2.2



2%にもなっている。その原因は湾岸戦争で使用された「劣化ウラン弾」の環境汚染によると言われている。

04年4月の発行の会報では、劣化ウラン弾の健康被害と体内被曝のメカニズムについて特集を組み、人道的支援とともにイラク戦争でアメリカに劣化ウラン弾を使用させない世論づくりに努めた。

◆ I P P N W北アジア地域会議に参加 (03.10.4~5京都)

この会議は日本、中国、韓国、北朝鮮の4か国で構成されている。当会から金井英子世話人が参加し、その報告を04年4月の会報に掲載した。

◆被爆60周年国際署名「いま、核兵器の廃絶を」の推進

今まで「ヒロシマ・ナガサキアピール署名」に取り組んできたが、被爆60周年の節目に合わせた「今、核兵器の廃絶を」という内容の署名に取り組んだ。これは05年5月に開催のNPT再検討会議に向けたものである。

◆「九条医師の会とやま」を発足

04年8月3日、本会世話人会で憲法九条をめぐる情勢について議論を行ない、核戦争を防止する前提として、まず通常の戦争を起こさせないことが重要であること、また最近高まっている改憲の動きは、自衛隊の海外での武力行使を可能にするものであることから、憲法九条を守る活動にも取り組むことを確認した。

しかし憲法論議には会員の中でも意見が多様であることから、別組織「『九条の会』に賛同する富山医師・歯科医師の会」（略称

『九条医師の会とやま』）を発足させ、片山喬氏、高野昇治氏、小熊清史氏の3人が呼びかけ人として活動することになった。

◆寺島実郎氏の講演会

04年11月16日、寺島実郎氏を講師に市民公開講演会「世界の潮流と日本の進路」を開催した。寺島氏は、米大統領選挙でブッ

シュが勝利し、一時的にはアメリカの単独行動主義がいつそう顕著になるが、矛盾が拡大して支持を失っていきだろうとの見方を示した。これからの日本のとるべき道はアメリカ型資本主義一辺倒ではなく、ヨーロッパ型資本主義にも学ぶことが重要であること、一方で中国を中心とするアジアの台頭には目を見張るべきものがあり、日本はアメリカへの盲目的追随から脱しなければならないと述べた。



◆アニメ映画「NAGASAKI・1945～アンゼラスの鐘」の製作協力活動

04年11月、被爆60周年を祈念したアニメ映画「アンゼラスの鐘」製作委員会からの製作協力依頼の申し出を受け、当会として富山での自主上映に取り組むことを確認した。

テーマが被爆直後の長崎を舞台に、医師たちのヒューマニズムあふれる医療活動を描いたものであることから保険医協会とも協力し、被爆者協議会とも連携しながら実行委員会を結成した。

上映日は05年9月25日、より多くの県民の参加をめざしてマスコミや各団体に宣伝やチケット頒布の協力依頼を行ない、準備をすすめている。

◆NPT核拡散防止条約再検討会議に向けて黒部副代表が訪米



05年5月にNPT核拡散防止条約の再検討会議がニューヨークで行なわれた。5年前の同会議では核保有国に対し核兵器削減への「明確な約束」が盛り込まれたが、今回アメリカの不誠実な対応

で前進できなかった。

この会議に向けて各国代表への要請行動のために渡米した黒部世話人副代表に当会のメッセージと署名を託した。

◆原水爆禁止世界大会パンフの斡旋、平和美術展の協賛

◆冊子「私と日本国憲法」の斡旋普及

◆とやま朗読劇の会の公演に対し協賛

◆前回総会以降、会報を4回発行した

この間に当会が発表した声明文

- 03. 9/20 : 米国の臨界前核実験の実施と小型核兵器開発に抗議する
- 03. 11/26 : 米国の小型核研究の解禁に抗議する
- 03. 12/22 : イラクへの自衛隊派遣に抗議する
- 04. 2/ 3 : イラクへ派遣した自衛隊本隊は撤収すべき
- 04. 4 /9 : イラクで拘束された邦人3人の安全のために日本政府が全力をあげることを求める
- 04. 11/ 1 : イラク邦人殺害の責任の一端は政府に一大義なき自衛隊駐留の即時撤退を求める
- 04. 12/10 : 大義なき自衛隊のイラク派遣延長に抗議する

2005、2006年度 活動方針

- (1) 核兵器廃絶への世論形成に努める事業
 - ・核兵器廃絶への世論形成に役立つ可能な限りの活動を行なう。
- (2) いかなる戦争にも反対し、憲法を守り、平和を希求する活動
 - ・核戦争はもちろんのこと、いかなる戦争にも反対し、日本国憲法九条を守る活動を積極的に行なう。
- (3) 県内の非核・平和団体との協力、共同の取り組み
 - ・県内の非核、平和団体と積極的に協力してく。
- (4) IPPNW並びに全国の同趣旨の会との連携
 - ・「核戦争防止、核兵器廃絶を求める医師、医学者のつどい」に参加する。
- (5) 組織の充実、発展をめざす
 - ・会報の定期発行と会員増加を図る。

次期役員（案）

- 世話人代表 片山 喬 (富山市・富山医科薬科大学名誉教授)
- 世話人副代表 高野 昇治 (富山市・高野整形外科リウマチ科医院)
- 黒部 信也 (富山市・富山協立病院名誉院長)
- 世話人 太田 真治 (高岡市・おおたファミリー歯科)
- 小熊 清史 (魚津市・小熊歯科医院)
- 金井 英子 (砺波市・福野厚生病院)
- 瀧 邦彦 (富山市・滝医院)
- 矢野 博明 (新湊市・矢野神経内科医院)
- 与島 明美 (富山市・富山協立病院)
- 顧問 佐々 学 (元富山医科薬科大学 学長)

会計報告および予算案

2003年度および2004年度会計報告

自：2003年7月 1日
至：2005年6月30日

<収入の部>

年会費	4 4 5, 0 0 0
雑収入	1 8, 5 0 2
前年度繰越金	4 1 6, 3 7 5

合計	8 7 9, 8 7 7
----	--------------

<支出の部>

会議費	2 1, 2 4 0
事業費	7 0 2, 2 8 0
事務費	7, 5 7 5
協賛金	4 0, 0 0 0
雑費	0
小計	7 7 1, 0 9 5

翌年度繰越金	1 0 8, 7 8 2
--------	--------------

合計	8 7 9, 8 7 7
----	--------------

2005年度および2006年度予算案

自：2005年7月 1日
至：2007年6月30日

<収入の部>

年会費	5 0 0, 0 0 0
雑収入	3 5 0, 0 0 0
前年度繰越金	1 0 8, 7 8 2

合計	9 5 8, 7 8 2
----	--------------

<支出の部>

会議費	8 0, 0 0 0
事業費	3 5 0, 0 0 0
事務費	5 0, 0 0 0
協賛金	4 0, 0 0 0
雑費	0
小計	5 2 0, 0 0 0

翌年度繰越金	4 3 8, 7 8 2
--------	--------------

合計	9 5 8, 7 8 2
----	--------------

会費納入のお願い

私たちの会の活動は、会費中心に運営しています。活動の基盤となる財政を確保するため、先生の入会ならびに2005年会費の納入をお願いします。

会の趣旨に賛同し、入会を了承される先生は、FAXまたは電話でその旨ご連絡ください。会費納入用郵便振替票をお送りします。

◇年会費 5,000円（毎年7月が期首）

◇振込方法

「郵便振替票」をご利用下さい。

◇連絡先

核兵器廃絶をめざす

富山医師・医学者の会

富山市桜橋通り6-13

フコクビル11階 076(442)8000

編集後記

- 8/16放送の「思いをつなげて」はいきなりベッドに横たわる秋月医師を映し出した。鼻からチューブを入れ顔面が腫れ上がった姿と、往年の凛々しい映像との大きな落差は、否が応でも秋月医師の思いを伝える時間がもう残されていないことを物語る。
- 「広島では長崎の8/9の登校日というものはなく、平和が大事だ」という発言も言いにくいようになって…」平和大使に選ばれた広島の高校生の挨拶の一節だ。広島では若い世代への伝承がうまくいっていないのではないかと危惧を抱かせる。
- それにしてもこのような番組が深夜に放送されてもどれだけの国民が視聴できるのだろうか。「情報の市場原理」で、スポンサーのつきにくい番組はますます隅に追いやられていくのだろうか。(S・M)